

令和4年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立嶺町小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習カードを活用し、技能ポイントを理解しながら学習に取り組むことができるようになってきた。
- ・一斉一律な課題解決ではなく、個々の実態に合った課題設定を行ったり、場を選択したりしながら学習を進めていくことができるようになってきた。

(2) 課題

- ・外遊びの時間が十分でないことや、運動が日常化していない現状から、基礎体力が低下している。
- ・各学年が系統的な指導を意識し、当該学年で何を身に付けるべきかを理解し、指導にあたる必要がある。

2 東京都統一体力テストの結果分析

(1) 正答率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	・今年度の結果が未着のため、後日追記。	/	/
第5学年	・今年度の結果が未着のため、後日追記。	(第4学年時) ・男子はソフトボール投げ（巧緻性・瞬発力）、女子は20mシャトルラン（全身持久力）が全国平均・都平均を大きく下回っている。	/
第6学年	・今年度の結果が未着のため、後日追記。	(第5学年時) ・反復横跳び（敏捷性）が全国平均、都平均を大きく下回っている。	(第4学年時) 実施せず

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題のもち方が分からない児童が多い。 ・運動経験の差により、基本的な技能の差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に必要なこと、うまくいくために必要なことなど考えた事を友達に伝えることができる時もある。 ・自己の課題解決に向けた方法や練習の場を見つけることに課題が見られる。 ・課題に対する解決方法を伝えたり、教え合ったりことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて運動を行うことはできている。 ・普段の運動経験なども含めて技能差により、運動へ主体的に取り組む姿勢に差がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 観察カードや学習カードへの記入から、ポイントを理解している児童が多い。 各運動の行い方について理解している児童が多いが、技の習得につながらない児童もいる。 	<p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の能力に適した課題を見付け、できるようになるための場を選んだり、活動を工夫したりすることができるようになった。 考えたことや、アドバイスを友達に伝えることが難しい児童がいる。 	<p><5年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 運動に進んで取り組み、きまりを守って運動に取り組むことができる。 動きや、気づいたことを伝え合う際、友達の考えを認めたり、自己の課題解決につなげたりすることが苦手な児童が多い。
<p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な運動能力に課題がある。(筋力・敏捷性) 運動のポイントを理解することが技能の向上につながることを理解している児童が増えた。 一部の児童は、運動技術(わかる)が、運動技能(できる)につながらっていない。 	<p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを他者に伝えることができるようになってきた。 単元の終盤に差し掛かっても「楽しいからやる」段階のまま学習を進めているため、自分に合った課題や場の選択ができていない児童がいる。 	<p><6年生></p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童は、前向きに運動に取り組むことができる。 不得意な運動に対して、粘り強く取り組むことが苦手な児童が多い。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びの特性に応じた楽しさを児童に味わわせるため、運動量の多い運動遊びを多く取り入れる。 運動のポイントを明示し、基本的な技能が身に付けられるような授業展開をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分自身の課題を把握したり、解決方法を考えたりすることができるように学習カードを活用する。また、いろいろな場の設定をする。 自分の考えたことや友達の良いところを互いに伝える時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童がすすんで運動遊びに取り組めるように、場や行い方を工夫する。 安全に運動するためのポイントを押さえる。 低学年から学習規律や服装の指導を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・学習カードの工夫などをして、運動のポイントを押さえることで、自己の課題を見付けられるよう指導する。・運動量を確保した授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none">・課題にあった活動を工夫できるよう、教師から練習できるポイントも含めて場を提示し、その中から選べるようにする。・自分の考えをもつための時間と自分の考えたことを、友達に伝える時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none">・易しい場や課題から運動始めたり、場を工夫したりすることによって個人差にあった運動に取り組み、すべての児童が成功体験を積めるようにする。・児童のやってみたいを引き出す単元計画を作成する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・単元の中で、感覚づくりの時間を帯でとる。・ICT 機器を使って、技能ポイントの理解を促したり、こつを共有したりする。	<ul style="list-style-type: none">・自己評価を行う方法を示し、単元のゴールに向かうにあたり、適切な課題が設定できているかを振り返ることができるようにする。・「身体の使い方」に着目して、技能を向上させるために何が必要かを考えられるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">・「できそうだ」「やってみたい」「上手になりたい」と思えるような単元全体のゴール設定を心掛ける。